

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第2区分
 【発行日】令和4年12月23日(2022.12.23)

【公開番号】特開2021-166709(P2021-166709A)
 【公開日】令和3年10月21日(2021.10.21)
 【年通号数】公開・登録公報2021-051
 【出願番号】特願2021-66206(P2021-66206)
 【国際特許分類】

A 6 1 B 17/00(2006.01)

B 2 5 B 23/16(2006.01)

A 6 1 B 17/56(2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/00

B 2 5 B 23/16

A 6 1 B 17/56

10

【手続補正書】

【提出日】令和4年12月15日(2022.12.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0051

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0051】

図4Aおよび図4Bは、本発明の1つまたは複数の態様に従って構成されたリアパワーハウジング400の一例を例示する。リアパワーハウジング400は、長手方向軸410、近位端部412および遠位端部414を含む。操作中に、長手方向軸410は、組立中および使用中、ハンドル1000の長手方向軸1100と一直線上に置かれる。図4Aに例示されるように、リアパワーハウジング400は、近位端部412から延在する本体420、本体420から延在するドライブシャック基部470、ならびにドライブシャック基部470に連結され、かつ遠位端部414に対してドライブシャック基部470から長手方向軸410に沿って長手方向に延在するドライブシャック480を備える。ドライブシャック基部470は、ドライブシャック480と不変的に連結するか、これを保持する。

30

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0069

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0069】

操作中、ハンドル1000は、例えば整形外科的な四肢の大型関節手術、または脊椎の手術中に、例えば骨内部へと締結具をネジ留めするために使用されてよい。第1に、ネジまたはドリルビットのドライブシャフトは、ツールまたは器具開口部230を通してツールコネクタ200の長手方向ボア232へと挿入され、カップリング機構により内部に取り外し可能に連結されてよい。外科医またはユーザが、手動でのネジ挿入を所望する場合、ボタン550の縁554が、リアパワーハウジング400のシャック基部470の溝472と係合するまで、または例えば厚肉部560またはハンドルグリップ500の近位端部512によって停止されない限り、ハンドルグリップ500は、ハンドルグリップ500の近位端部512にて、例えばドライブシャック480の遠位端部414を長手方向ボ

40

50

ア 5 3 0 へと挿入することで、リアパワーハウジング 4 0 0 のドライブシャフト 4 8 0 に取り外し可能に連結される。外科医またはユーザが、例えば動力ドリルまたは動力器具を用いたネジ挿入を所望する場合、ドライブシャフト 4 8 0 は、動力ドリルまたは動力器具のカップリング機構に取り外し可能に取り付けられる。本発明の 1 つまたは複数の態様に従って、ハンドル 1 0 0 0 は、外科医またはユーザがトルクの動力による印加と手動による印加との間を容易に移行するように設計される。

10

20

30

40

50